

銅賞 阿久津 翼君

室蘭工業大学工学部建築社会基盤系学科 交錯する図書館—静かで賑やかな場所—

様々な大きさと角度を持つスラブが積み重なり、大小の隙間が視線と動線に多様性のある空間を作り出している。平面に見られる室と室の隙間が巨大なマスとしてのボリュームに特徴を与えている。ただ、立面における既視感や色彩計画、敷地設定については、整理されていない印象があった。コンセプトワークのみの表現やアートの表現に陥ることなく真摯に建築に取り組む姿勢を評価するとともに、今後の期待をこめて、銅賞とするものである。 建築というものは最初この作品のようにぼんやりとしたイメージで白濁した記憶から晩起される。

(文責：齊藤 文彦)

